

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成29年度採択）

中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
29-8	部分係数設計に向けた塑性化を考慮した鋼桁設計法の研究開発	長岡技術科学大学 准教授 宮下 剛	B
<p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>本研究は、断面の一部塑性化を許容した鋼桁の耐荷力特性を実験および解析により把握することを目的としている。さらに、各国の鋼橋の設計基準を分析し、現在の道路橋示方書では具体的に記述されていない、部材の一部塑性化を考慮した鋼桁の設計法の開発を行う。</p> <p>&lt;中間評価&gt;</p> <p>研究の進捗状況は順調であり、研究成果の見通しがある程度期待できることから、指摘事項に留意しつつ、効率的な実験・解析の実施に努め、現行のとおり推進することが妥当と評価する。</p> <p>&lt;今後の研究計画・方法への指摘事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 諸外国の設計思想を十分に整理した上で目指すべき設計思想を整理し、検討を進めていただきたい。</li><li>2. 設計指標(こわれ方、変形特性)を考慮した実験を考える必要がある。</li><li>3. 経済性等を含め、研究の具体的な利点が明確になるよう整理していただきたい。</li><li>4. 外注費が経費の大半を占めていることから、削減など効率的な実施を検討していただきたい。</li><li>5. 初年度の実験から得られた知見や課題を随時反映し、適切な実験計画を策定していただきたい。</li></ol>			

※本評価結果は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第34回新道路技術会議において審議したものである。